

医学教育ニュース (第 57 号)

令和元年 7 月 10 日 発行

編集 久留米大学医学部教務委員会 広報活動部会

「巻頭言」

それぞれの学年での学生生活も早いもので三ヶ月が経過しました。充実した毎日を送っていると思います。今年度初めての医学教育ニュースをお届けします。今回は、この四月より医学部長に就任されました矢野 博久教授に「医学部長として学生に望むこと」という題でご執筆頂いています。並びに安陪 等思教務委員長にも学生の皆さんに向けたメ

ッセージを頂きました。また、今年の一月より、教授にご就任された物理学教室の長澤真樹子先生には、「医学部と物理学」という題で教育に対する思いを書いて頂きました。いずれも学生の皆さんに有益なメッセージです。是非、ご一読ください。

秋葉 純／病理部 教授

新医学部長からのメッセージ

本年 4 月に、平成最後で令和最初の久留米大学の医学部長に就任しました。新学部長として医学部医学科の学生みなさんに日頃思っていることをメッセージとして送りたいと思います。

現在、久留米大学のカリキュラムや評価方法（試験）は大きく変わってきております。その目的は大きく 2 つあり、1 つは医学科の学生全体の学力アップであり、集中型講義+直後の試験、低学年の総合試験（CBT）、5、6 年生に対する複数回の試験などが導入されました。もう 1 つは医学教育分野別評価の認定を得るため、簡単に言うと久留米大学医学部医学科の教育を国際基準に合わせるための変更です。これにより、臨床実習の順序や実習先の変更・期間の延長（66～74 週）

医学部長 矢野博久（病理学講座 主任教授）

が実施され更に充実した内容になりました。みなさんは試験が多く大変ですが（私も同情しますが）、6 年で無事に卒業して国家試験に合格するためには仕方ないと言うことを自覚してもらいたいと思います。そこで・・・6 年間を無事に乗り切るために、何が一番大切かと言うと、大学入学時に誰もが必ず持っている医師になり社会に貢献する！という、その高いモチベーションを忘れることなく、6 年間保つことだと私は思っています。もし、モチベーションが落ちてきたら、医学入門実習、共同学習、施設体験実習、RMCP そして臨床実習で、昔を思い出してモチベーションを上げてください。高いモチベーションで自ら、自らの明るい未来のために学習することが、すべての基本だと私は思っています。

もう一つ、みなさんに望むことは、ぜひ、医学英語を含めて英語をしっかり学習していただきたいと思っています。2020年度から小学校で英語教育が必須になります。今後、日本では更に国際化が進むでしょうし、最新の英語の文献を読む、海外の学会で研究成果を発表する、海外の研究者と共同研究をするなど、いずれのシーンでも英語の能力が必要です。久留米大学医学部医学科でも、今年から臨床実習の国際交流プログラムが始まり、米国のブラウン大学から1名、韓国の建陽（コニャン）大学から3名が久留米大学病院で臨床実習を行いました。RMCPでは毎年10名前後が、海外の研究実習を経験していま

す。海外から来た学生や海外の研究者と良好なコミュニケーションを取るためにも英語力が必要です。直ぐ実行できる事として、疾患を学んだときに疾患名を英語でも憶える、海外ドラマ・映画を原語で鑑賞するなど、そういうところから始めてみるのも良いと思います。

最後になりますが、私に何か質問などある時には、気軽に病理学講座(基礎1号館5階)まで、訪ねてきて下さい。学生のみなさんが有意義で楽しい学生生活を久留米大学でくれるように、教職員全員で支えていきたいと思ひます。

『間抜けにならないで』

安倍等思 教務委員長（放射線医学講座 主任教授）

皆と同じことをすると安心できるのはよく分かるし、それは安全な生き方の1つであるとも言えるでしょう。でもね、正しくて行くべきであると分かっていることを皆がしていないので、自分もしなくて良いと考えるのは危険です。決まり事やお作法というのは医療や医学に限定されずにさまざまな場面毎に設定されているのですが、特に医療の現場においては人の命に直結するので、初めてその場面に入ってくる人にとっては恐れを持って対応すべきことです。

さて、医学生の学生生活は医療現場の前段階であることは誰にでも分かります。そのお作法はシラバスやカリキュラムに記載されています。昨年からは学年毎ではなく1年生から4年生までを通して1冊にまとめてありますから、今年に昨年と変化があるところは分かります。それは重要なところになりますので、見逃して間抜けなことにならないように

してください。

特に今年は態度評価を行うとしています。そこは大変に重要な変更点であると認識してください。たとえばセキュリティ対策として行っている名札の着用をしていないことの意味はどのようなものであるかを考えてください。不快に感じられるかもしれない服装や態度で院内を歩く学生を限りある命の患者さんが見ることどう思いますか、態度評価で1点の減点をテストの点数から引くということを行うとしたら、その1点の重さに苦慮する人もいるかもしれません。複数回にわたり態度評価が悪いと複数点が減算されると大きなインパクトになる危険性もあります。その様なリスクは回避してください。

法律のレベルの問題ではなく、品格の問題であると感じることができる感性を求めます。

人は、自らの経験から逃れられない、という。教育に関するセンテンスだと、教員は教壇に立ったとき、自分が学生時代に習った方法で講義をしてしまう、と。しかし医学部ならそれも程度はいいのかな、とも思う。なぜなら、医学部で教鞭を取る先生方は、謹直で温かく卓抜な能力を備え、学識豊かで熱心で人徳があり、早い話が立派な国手で、その先生方を育んだであろう教育法には、優れた実績があるわけだから。学生の大半が先生方と同じになるなら、その教育は文句なしの大成功である。一方、万が一、学生の半分が私のようにでもなったものなら、それは久留米大学にとって壊滅的事態かもしれない。私は天文学者である。

天文学者は医学部で物理学を教えるのに、最適な人種の1つであると思う。多くの天文学者にとって「物理学」は便利なツールの1つに過ぎない。現代人にとっての「スマホ」みたいな位置づけにある。つまみ食いして使えばいいので、自分が受けた物理教育を繰り返そうなどとはてんから考えない。天文学者と物理学の関係は、医師と物理学の関係と似ている。

何かが必要かどうかは、使えるかどうか、に大きく左右されるだろう。小学生が「割り算なんか知らない」と言ったり、お年寄りなどが「スマホなんて知らない」と言ったりするようなものである。傍から見てみると、こんな便利なものにとか、万一のとき救急車を呼べるようにスマホを持っていてほしい、とか思うが、本人たちはそれで十分幸せである。そして毎年何人もの学生が私に言う。「物理なんか知らない」。

いやはや、まったくもって申し訳ない。もっとも天文学者は内心ひそかに、皆が同じではつまらん、と思っていたりするので、それはそれでよかったりもする。ただ一般論とし

て、あなたは最低限、よく知らないものは正當に評価できないことだけは知っておくべきである。あなたが大学を代返やコピペレポートで誤魔化してしまっても幸せであっても、他の人に「××知らない教」を伝道するようなことをしてはいけない。幸運は用意の良い人を好む性質がある。あなたが何かの学問を知らないと言っていいのは、誰よりもその学問に習熟した上で医師となり、そして墓に入ったときである。

物理学をなぜ学ぶのか。

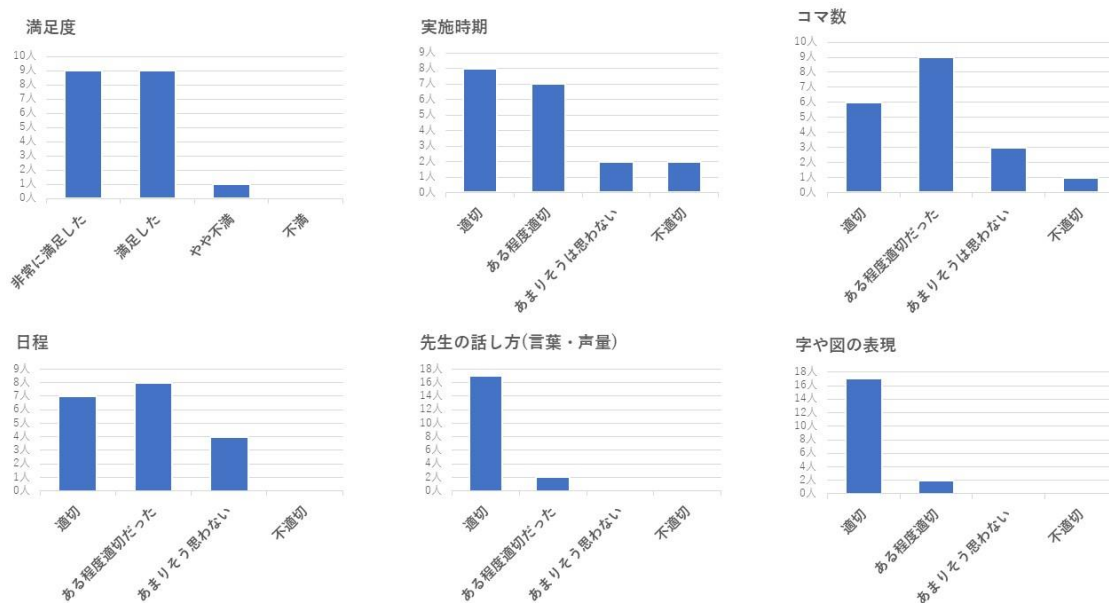
医師が「飛行機から唾を吐いたら何分後に地上の人に当たるか」などという問題を解かなければならないシチュエーションに遭遇するとはまず考えられない。それでも講義をするのは、物理学が伝えたいのは、物の理(ことわり)を科学的にとらえ対処する技法だと知っているからである。1年生に入った時点では通常学生は「知の消費者」である。知りたいことはネットにほぼ何でも書いてある。過去問もある。しかしもしあなたが「医学」を進展させようと志すなら、やがて「知の生産者」とならなければならない時が来る。基礎科学はそのノウハウを伝えようとしている。物理学の問う「なぜ」は突き詰めればそこに至る。原因がわかれば、治療法がわかる。メカニズムがわかれば、予防法がわかる。正しい「なぜ」は、あなたの目の前の患者だけではない、世界中の患者に、そしてあなたが医師としての役目を果たし終わった後においてすらも、その答えは人類に貢献しつつあるだろう。

仕事や人生の難しい問題を AI の判断にゆだねてしまえたら楽でいいな、と思う人は物理を勉強しなくてよい人である。また物理を諦めても、自分の学習には欠けたものがあると認識して別の能力を磨くならそれでもいい。物理をさぼっただけで、他の能力を高め

ようとしなければ、それはもう、ただ のダメな人である。

春合宿のアンケート結果

去る平成 31 年 3 月 11 日～3 月 14 日の 4 日間に現 6 年生の一部の学生さんを対象に春合宿が執り行われました。参加された学生は、熱心に取り組み、概ね好評だったと思われる。学生さんに書いて頂いた感想の一部を掲載します。4 日間の合宿の終わりのお疲れの所、記載してくれてありがとうございます。頂いた意見を今後の合宿の参考にさせて頂きたいと思えます。



講師に対する要望やメッセージ

- ・分かりやすい講義をしてくださりありがとうございました。
- ・マイナーを合宿でするのも手だと思いました。あまり略語を使わずにフルスペルなのが個人的にはわかりやすかったです。
- ・とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。
- ・非常に深い所まで丁寧に解説して頂き、ありがたいと思った。
- ・完ペキです。ありがとうございました。
- ・詳しく、分かりやすい講義をありがとうございました。
- ・他の科目の授業もして欲しいです。
- ・4日間にわたりご指導いただき本当にありがとうございました。
- ・1つ1つわかりやすく講義していただきありがとうございました。
- ・答ではない選択肢をよく勉強すると出題者の意図がわかりやすくなるのがわかった。
- ・わかりやすかったです。
- ・勉強し始めようとしていた時期だったのでありがたかったです。6年生での計画が立てられてよかったです。ありがとうございます。
- ・面談だけではなく、質問する時間も設けてほしかったです。
- ・コマ数を少し減らしてください。

後輩に向けたメッセージ

- ・短時間で頭の整理ができます。
- ・内容は良かったと思います。
- ・かかるな！合宿には。
- ・勉強になります！
- ・こつこつやっといたほうが絶対良いです。
- ・合宿は悪いものではないと思います。面倒見てもらえます。
- ・身体は大切に。
- ・ご飯はおいしくない。
- ・体力勝負！！

「学生の皆さんへのお知らせ」

1. 学内にいるときには、**名札を着用**しましょう。医学部生としての自覚を持った行動を心掛けてください。
2. クリニカルクラークシップの学生さんは、久留米大学病院と書かれている**青い名札を表**にして着用しましょう。**Student Doctor 認定書は裏面**に入れるようにしてください。



3. キャンパス内での**自転車の運転**に気をつけましょう。
キャンパス内では、教職員の車、納入業者の車、検査のために訪れた患者さんの車などが通行しています。見通しの良くない箇所の改修作業を行っていますが、キャンパス内のみならず、登下校時の安全運転を心掛けてください。

◆編集後記◆

今年初めての医学教育ニュースでは、矢野 博久医学部長、安陪 等思教務委員長、物理学教室の長澤真樹子教授に執筆して頂きました。また、現 6 年生を対象に三月に行われました春合宿のアンケートの一部を掲載しています。下級生の皆さんの参考になる内容と思われます。また、学生さんに伝えたい事も分かりやすい形で掲載したつもりです。医学教育ニュースは、久留米大学医学部医学科のホームページにてご覧頂けます。皆様の様々なお意見等を教務委員会まで頂けると幸いです。

編集責任者 秋葉 純